

市民の手で市民活動を支える

認定 NPO 法人

宝塚 NPO センター ニュース

2013
March

No.74

発行人：牧里 毎治
編集人：中山 光子

このニュースの編集・発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています。



わたしと NPO

認定 NPO 法人
放課後遊ぼう会
理事長 足立 典子さん

私が子どもの頃は、毎日外で友達と思いきり遊ぶのは当たり前のことでした。毎日の豊かな集団遊びの中で、子どもたちは社会性やルールを身につけ、体力や運動能力を高め、心も体もたくましく成長します。今、子どもを取り巻く環境は大きく変化し、遊びたくても遊べない子が増えています。今の子どもたちにも、そこへ行けば必ず誰かが遊んでいて一緒に遊べる、そんな毎日の遊び場が必要です。

そこで、12年前に同じ思いの保護者3人でボランティアグループを立ち上げ、放課後の遊び場づくりを始めました。以降、子どもたちがいつでも誰でもいきいきと遊べる常設の遊び場づくりを目指して、放課後の遊び場を開催しています。昨年度は、毎日開催の1校を含む宝塚市内の8小学校において、

百数十人のボランティアの皆さんと協力して、合計 500 回遊び場を開催し、参加者数は延べ 35,110 人でした。私たちは子どもたちの成長を見守りながら、元気をもらっています。また、遊び場にはいろんな世代の人が参加してくださっており、異世代交流の場にもなっています。

放課後遊ぼう会では、遊び場の安全管理など大事な役割を担うプレイリーダーを雇用しています。受益者負担を求められない活動なので、兵庫県や宝塚市からの補助や委託事業頼みで自転車操業を続けてきました。しかし、補助は減り、委託事業は数年限りという状況の中で、将来も活動を続けていくには財政基盤をしっかりしていかなければならない、との思いで、平成 22 年に NPO 法人格を取得し、昨年末に認定 NPO 法人になりました。これまでも、いろんな機会に、地域の皆様に子どもの遊びの重要性や遊び場づくりの意義をご説明し、ご支援をいただけてきました。これからもより一層、信頼していただけるよう、よりよい遊び場づくりを目指して努力していきたいと思っています。



わたしと NPO

NPO 法人
新エネルギーをすすめる宝塚の会
理事長 中川 慶子さん

昨年の初めから宝塚 NPO センターの手取り足とりのご指導を受けて、5月に設立総会を開き、9月に県から NPO 法人の認証をいただきました。32年ほど前からやっている「原発の危険性を考える宝塚の会」との両輪活動の始まりです。

前半は見学や情報収集にかけずり回り、夏ごろからいよいよ市民発電所設置に向けて本格稼働。幸いにしてすべてがうまく回り、多彩で優秀な人材からなる運営委員会で頻繁に検討を重ねながら「宝塚すみれ発電所第1号」が誕生しました。全国で初めてかもしれない、地面にじか置きの手作り市民発電所です。市の新エネルギー推進課の皆さん

も汗を流してくださいました。市と市民との協働はこのような形でスタートを切りました。

市民発電所は地域の資源である自然の恵みを利用して、地域の人たちが自分たちの資金で設備を設置し、生まれた電気を電力会社を買ってもらうものです。名目上は売っている電気も、実質的には地域で使うこととなります。小規模分散型ですが、ちりも積もれば山となる、これからも私たちは、みなさまのご協力を仰ぎながら第2号、第3号とつくっていきます。

まずは省エネ、そしてそのあとは、皆様の屋根にパネルを搭載していただいても、市民発電所に協力していただいても、太陽熱温水器を付けていただいても、熱電併用システムを導入していただいても結構。あらゆる方法で、宝塚市をできるだけ早く再生可能エネルギー溢れる、安全で子どもたちに誇れるまちにいたしましょう！

宝塚市市民活動促進支援事業

継続的に話し合うことの大切さを実感

毎月第4金曜日に開催の「きょう・どう？井戸端会議」。テーブルを囲み、簡単な自己紹介から始まる会は過去10回でのべ139人の方が参加。宝塚市民が中心に神戸・尼崎・三田・大阪・京都等、年齢も20代～70代と毎回多様な顔ぶれ。当初は「魅力的なまちづくりが出来ていない」と発言する宝塚市民に他市の方から「中にいるからその魅力に気付かないのでは？」と言われハツとする場面も。またまちづくりとは？という問いに「市民がするもの」等の発言。参加者の自立・自発性

の高さを感じました。また、元NHKエグゼクティブアナウンサーの佐藤誠さんをお招きして開催した「2度目の人生の生き方」講座ではウィットに富んだ佐藤さんの前半のトークと後半の意見交換会が好評。2回で52人の方々にご参加頂きました。この2つの事業に共通するのは出会ってから「話し合い」を大切にしていること。これらを機に法人化された参加者もおられます。(Y)



兵庫県地域づくり活動基盤支援事業

但馬地域で生まれた活動の芽

本年度の事業を通し、但馬地域において多くの活動の芽が生まれました。これらがスクスクと

育っていくためには、但馬地域における継続したサポートがより重要になってきます。当センターでは、来年度も、地元の支援組織NPO法人プラッツ（豊岡市民プラザ）と協働し、但馬地域におけるNPO支援を継続していく予定です。(W)

本年度の事業を通し、新しくスタートした但馬地域のNPO法人

コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク	若者支援、食育、環境、被災地支援	豊岡市
D・B・Cグループ	獣害対策、耕作放棄防止、地域振興	香美町
一元電車あけのべ	産業遺産の再評価、地域振興	養父市
スマイルプラス	コミュニケーション、子育て、地域振興	豊岡市
ひょうご住まいと環境	CO2削減、地域木材による建築推進、地域振興	養父市
にほんご豊岡あいうえお	外国人の生活支援、日本語教室	豊岡市
おおやアート村	アートをテーマにした地域振興と交流	養父市
但馬サッカー協会	サッカーの普及振興、健康づくり、地域振興	豊岡市

内閣府主催子ども・若者相談業務職員研修

研修で気付いた中間支援の可能性

1月28日から5日間、子ども・若者の相談業務に携わる民間団体の職員研修へ参加しました。全国から100名集まった支援者達。講義内容はファンドレイジングからひきこもりの家族対応法、若者の就労支援実務等多岐にわたり、充実した学び。8名のグループで行う「支援者自身が抱える課題解決ワークショップ」の際、唯一の中間支援団体からの参加者としてファシリテーターを担当しました。取り組んだ課題は信州から参加のフリースクール理事長が挙げた「事務所が寒い」

というもの。メンバーからは「ヒーターを増やしたら？」「信州だから仕方がない」等の意見が飛びかう中「もう少しお話伺い出来ますか？」と問うと、予算がなく建物も行政より無償で借り受けているために無理が言えないこと。そんな中で心が冷え切った若者の居場所となっている事務所をなんとかせめて身体だけでも温めてあげたいという想いを吐露。それをきっかけにメンバーからは続々とアイデアが飛び出し解決に向けて具体案を策定するお手伝いが出来ました。支援者の支援方法に気付くことが出来たこともまた本研修で得た学びの1つです。(Y)

宝塚・語りつく震災

シンポジウム開催しました

阪神・淡路大震災から18年となるのを前に、震災の教訓を忘れないためのシンポジウム「宝塚語りつく震災～災害でいのちをなくさないために～」を開催しました。

人と防災未来センター長の河田恵昭先生による「にげることは生きること」と題する基調講演では、宝塚市は雨に弱いと指摘。山間地の大規模宅地造成や武庫川上流の都市化も進み、傾斜地が多いことから下流の下水はすぐにあふれる危険性があると警告、大雨が続くような時は、取りあえず2階の山と反対側の部屋で寝ることと対策を伝授されました。

パネルディスカッションにご参加いただいた伊藤貴子さんは、東日本大震災の被災者。震災発生

時にご主人の入院先にいたが、病室はメリーゴーランドのように大きく長い間揺れていた、発生後しばらく



は靴を履いたまま寝ていたと当時の様子を語られました。昨年12月末に宮城県から宝塚市に移住して来られました。移住を決意したのは、一時避難した際の宝塚の支援体制が素晴らしかったからと、改めてお礼の言葉を述べられ、当日の参加者約300名から大きな拍手が湧き起こりました。

災害や事故の怖さを知らないと逃げるタイミングを失ってしまいます。改めて防災や災害について考えるいい機会となりました。(KT)

東日本大震災支援活動

避難者を支えていくために

平成24年度も避難者の交流の場「お茶っこカフェ」を月1回、第4土曜日を基本に開いてきました。当初からの参加者は少なくなりましたが、入れ替わりに群馬県や千葉県、東京など関東から避難して来られた方の参加も見られるようになりました。「お茶っこカフェ」に来られる避難者の多くは母子避難者です。『被災地で暮らす夫との二重生活で経済的負担が大きい、少しでも収入を得ることができたら…』というつぶやきから、今年度新たな取り組みとして「避難者のための就労支援講座」を5回シリーズで開催しました。延べ

30人の参加があり、この講座をきっかけに4月からの就労につなげた方もいます。当センターで避難者の方を就労支援し就職につなげた件数は昨年度の実績も合わせて、16件となりました。

また、これらの取り組みと並行して避難者みずからが立ち上げ、活動を始めたグループへの助成金を獲得するためのアドバイス、活動についての相談・助言など「グループ支援」も行ってきました。活動によって、避難者の結びつきも点から線へとなっています。(KS)



宝塚NPOセンター報告情報より

相談情報

(4月1日～2月28日まで)

・面接者数	1,469名
・電話FAX相談件数	2,699名
・メール相談件数	1,484名
・相談者数合計	5,652名

求人求職者・起業団体情報

(4月1日～2月28日まで)

・新規求人数	616名
・新規求職者数	369名
・就職成立者数	221名
・起業・拡充団体数	30団体

宝塚 NPO センター認定取得記念講演会

米倉誠一郎氏が語る 創発的破壊・未来をつくるイノベーション

昨年12月、宝塚NPOセンターは認定NPO法人に認定されました。

これまで支えて下さった皆様に感謝の気持ちを込めて、それぞれのジャンルでご活躍の方々を招き3回シリーズで講演会を開催し、これからの市民社会と一緒に考えていきたいと考えております。

第1回目は元一橋大学イノベーション研究センター長であり、現六本木アカデミーヒルズ日本元気塾長、プレトリア大学GIBS日本研究センター所長の米倉誠一郎氏です。



講師 米倉誠一郎さん

- ・日時 4月16日(火) 15:00～17:00
- ・場所 宝塚市立男女共同参画センター・エル
(阪急宝塚駅下車すぐ ソリオⅡ 4F)
- ・参加費 無料(定員 先着50名)

お申込み・お問合せは 認定NPO法人宝塚NPOセンターまで

ご支援ありがとうございます(順不同、敬称略 期間:2013.3.8まで)

●新たに入会された皆さん

【個人正会員】清水幹子

【団体正会員】(認定)日本レスキュー協会・(特活)宝塚高次脳機能障害共生の会・(特活)さわやか三田

【賛助会員】石原朱実・山田忠生・小林和子・森川滋

●寄付をいただいた皆さん

ろうきんNPO寄付システムご利用の皆様、森田道太郎、山口一史、相田英俊、(特活)神戸ライフ・ケア協会、沖野芳郎、掛水すみえ、大濱芳子、正木みつ子、崎本明宏

会員募集・継続のお願い

宝塚NPOセンターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。

人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さるようお願いいたします。

	個人正会員	団体正会員(NPO法人他)	法人正会員	賛助会員
会費	10,000円	10,000円	30,000円	3,000円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京UFJ	
支店	阪急宝塚出張所	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
カナ	トクテイヒエイリ タカラヅカエヌピーオーセンター	タカラヅカエヌピーオーセンター
口座名義	(特)宝塚NPOセンター	宝塚NPOセンター

編集後記

川西市の若者支援事業として開催された間寛平さんの講演会に参加しました。寛平さんによると、チャンスは3度降ってくるか。3度のチャンスを確かに掴んでアースマラソンを成功させた話に、私のチャンスはいつ来るんだろう?もう、3回とも来たのだろうか?と、寛平さんの「あへあへ」「アメマー」のギャグを聞きながら、人生を振り返ってしまいました。(KK)

認定NPO法人 宝塚NPOセンター

〒665-0845
宝塚市栄町2-1-1 ソリオ1-3F
Tel: 0797-85-7766
Fax 専用: 0797-85-7799
利用時間: 9:00～18:00
休館日: 月・日・祝日・年末年始
Email: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net

生きがいしごとサポートセンター-阪神北

Tel: 0797-87-4350
Fax 専用: 0797-85-7799
Email: cdc@hnpo.net
URL: http://cdc.hnpo.net

紙面に関するご意見・ご要望を左記までお寄せください。